

平成29年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	巨大複雑天然物群の網羅的創出による未踏創薬モレキュラスペースの開拓
研究代表者	井上 将行 (東京大学・大学院薬学系研究科 (薬学部)・教授) ※平成29年6月末現在
研究期間	平成29年度～平成33年度
コメント	<p>本研究は、テルペンやペプチド系巨大複雑天然物及びそれら類縁体群の網羅的な合成と活性評価による創薬リード分子の創出を目的としている。これら天然物は合成が困難であり、網羅的な合成を目指すこと自体が挑戦的な課題である。応募者の研究計画は独自に開発した合成方法を駆使する事により巨大複雑天然物の短段階合成を達成するものであり、世界的に見ても意欲的な試みである。本研究では、新たな創薬モレキュラスペースの開拓となる網羅的類縁体ライブラリーの構築と活性発現機構の解析を通じた創薬のリード化合物の開発が見込まれる。</p> <p>現時点では活性評価が緒についたばかりであるが、基盤研究（S）として推進することが適当と判断した。</p>